

たくさん食べて大きくなあれ

ノロ川牧場入牧式

森吉山麓のノロ川牧場で6月1日に入牧式が行われ、褐毛和種の牛が84ヘクタールの広大な牧場に放牧されました。

夏山冬里方式で育てられる牛たちは、市内や上小阿仁村の農家の牛舎で冬期間飼育されたもので、今年は10月末までの期間中に親子牛合わせて約70頭の放牧を予定しています。

現地で行われた入牧式には、北秋田地域振興局農林部やJAあきた北央の職員、飼育農家など関係者約20人が参加して、期間中の安全と成長を祈願しました。

放牧された牛たちは牧場を歩き回り、新鮮な牧草を食べながらのびのびと過ごしています。



▲広い牧場でゆっくり草をはむ牛たち

新緑の映える湖面へ

太平湖水開き2007

森吉山県立自然公園の太平湖で、奥森吉観光シーズンの幕開けを告げる湖水開きが6月1日に行われました。

この日の太平湖は快晴に恵まれ、新緑まぶしい湖面に第1便となる「森吉丸」が約10人の観光客を乗せて出航しました。

小又峡は入口の船着場から「千畳敷」「穴滝」等の名勝が続く、「三階の滝」まで約1.8km(徒歩40分)のコースは気軽に散策が楽しめます。

遊覧船は10月末まで毎日午前9時30分から1時間おきに計7便が運行しております。天気のよい日にぜひ、足を運んでみてはいかがでしょうか。



▲第1便の「森吉丸」が観光客を乗せて小又峡へ

餅の販売と踊りで終日賑わう

第23回ふるさと祭り&餅つこ祭り

さわやかな初夏の一日となった6月3日、「第23回ふるさと祭り」と餅つこまつり(和田テエ子実行委員長)が鷹巣駅前・銀座通りを会場に開催され、餅を買い求める人や見物客など終日多くの人出でにぎわいました。

このイベントは、鷹巣町婦人団体連絡協議会が「唄と踊りと名物のまちづくり」を進めようと昭和60年に始まったもの。以来初夏の恒例行事として多くの市民の参加のもと継続されてきました。

今年は、秋田わか杉国体が開催されることから、協議会では国体名を入れたたすきを準備、踊り手は帯の上に、太鼓のたたき手は太鼓に巻いて大会PRに一役買っていました。



▲わか杉国体のたすきを身に付け国体PRにも一役買った今年のふるさと祭り

「マタギの里清流米」田植え体験

手植えにチャレンジ



▲楽しみながら手植えを行う児童たち

阿仁伏影地区の水田で、大阿仁小学校の5・6年生17人が6月1日、自分たちが給食で食べているお米がどういう所で、どのように作られるか体験しようと、「マタギの里清流米」の田植えに挑戦しました。

「マタギの里清流米」は「阿仁清流米生産グループ」(伊東孝夫代表)が、阿仁の素晴らしい自然環境の中で生産されるあきたこまちをブランド化し販売、これまでも首都圏の消費者と農業体験交流を行っています。

この日は絶好の田植え日和、はだしで田んぼに入った子どもたちは泥に足をとられながらも手植えのコツを掴み、秋に美味しいお米が取れるようにと丁寧に作業を終えました。

東北一円の太公望が腕前を競う

鷹巣中央公園で「東北六県懇親釣大会」

日本へら鮎釣研究会が主催する東北六県懇親釣大会(鈴木康雄会長)が5月27日、鷹巣中央公園で開かれ、各県から訪れた太公望たちがへら鮎釣りの腕を競い合いました。

秋田県では初の開催。東北6県から101人が参加しました。競技は規定時間内に釣り上げた15cm以上のへら鮎の総重量と大きさを競うもの。この日は水温もやや低めながら、これまでのへら鮎の放流事業の成果もあり、釣果も上々の様子でした。成績は次の通りです。

▽優勝(市長賞) 丹波ひめ子さん(天館市) 重量9.06キロ

▽大物賞 本間高さん(秋田市) 31センチ



▲へら鮎釣の名所としても知られている中央公園。腕自慢の太公望が大物ねらいに挑戦

ふるさとへの思いは深く

第21回東京圏あに会総会

東京圏あに会(山本巖会長)総会が5月27日、「かんぼヘルスプラザ東京」で開催され、首都圏在住の会員や阿仁地区関係者など約130名が出席し、ふるさとの話題などで親睦を深めました。

山本会長が、国体アーチェリー競技が開催されることを紹介し「想い出に残るビックイイベントを目で見て肌で感じ、郷土との交流を深めてほしい。」とあいさつしました。

懇親会では、歌手の三浦明さんが「安の滝」を熱唱したほか、渡部ワカ社中の舞踊が花を添え、会場に設けられた特産品販売コーナーでは、山菜や加工品などふるさとの味が人気を集めていました。ふるさと談議は尽きることなく、来年の再会を約束し散会しました。



▲再会に笑顔が溢れる会員たち